

會 報

役 員 會

第 14 回理事會 (昭. 18. 12. 20)

出席者: 黒河内會長, 鈴木副會長, 瀧淵理事外 4 名,
中村書記長, 小野寺庶務主任外 2 名

議 事

1. 昭和 19 年度收支豫算を別紙 (省略) の通り承認することとせり
2. 特定期間中入會金を免除することとし之を通常總會に諮ることとせり
3. 通常總會を昭和 19 年 2 月 15 日帝國鐵道協會に於て開催することとし議案を次の如く決定せり

通常總會議案

1. 昭和 18 年度事業報告
2. 昭和 18 年度決算報告
3. 役員選舉の結果報告
4. 特定期間中入會金免除の件

「本會ハ昭和 19 年 1 月 1 日ヨリ昭和 19 年 12 月末日マデニ新ニ入會ヲ承認セラレタル正會員, 准會員, 學生會員ニ對シ土木學會規則ノ規定ニ拘ラス特ニ入會金ノ納付ヲ免除スルコトヲ得」

5. 土木賞牌贈呈

總會終了後晚餐會開催 (會費 5 圓)

4. 入退會を別記の通り承認

第 15 回理事會 (昭. 19. 1. 10)

出席者: 黒河内會長, 鈴木副會長, 瀧淵理事外 4 名,
中村書記長, 小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 北海道支部役員會議事及講習會記事
2. 日本工學會評議員會議事
3. 昭和 19 年改選役員詮衡結果
4. 飛行場急速建設の新構想審査委員氏名

議 事

1. 飛行場急速建設の新構想審査委員長に鈴木雅次君を依頼することとせり
2. 臺灣支部昭和 19 年度收支豫算別紙 (省略) の通り承認することとせり
3. 臺灣支部より申請の支部管内會員に配布する約 50 頁の支部會誌を年 4 回發行の件は承認することとせり
4. 華北支部昭和 19 年度收支豫算別紙 (省略) の

通り承認することとせり

5. 昭和 18 年度事業報告別紙 (省略) の通り通常總會へ報告することとせり

6. 土木學會誌論文集は從來の土木學會誌寄贈先に對し寄贈することとせり

7. 昭和 18 年度土木賞牌贈呈優秀論文を次の通り決定せり

乾燥砂の運動機構に就て

土木學會誌第 28 卷第 5, 12 號及第 29 卷 6, 10 號登載

著者 正會員 最上武雄君

河西橋に関する報告及び研究

土木學會誌第 28 卷第 7, 8 號及第 29 卷第 27 號登載

著者 正會員 横道英雄君

コンクリートの壓縮に依る内部應力を求める新試験法

土木學會誌第 29 卷第 11 號登載

著者 正會員 赤澤常雄君

第 9 回常議員會 (昭. 18. 12. 20)

出席者: 黒河内會長, 鈴木副會長, 瀧淵常議員外 6 名, 青山前會長, 中村書記長, 小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 鳥取地震調査完了
2. 關西支部昭和 19 年度收支豫算承認
3. 東北支部昭和 19 年度收支豫算承認
4. 11, 12 月分入退會承認

議 事

1. 昭和 18 年度更正收支豫算別紙 (省略) の通り承認することとせり
2. 昭和 19 年度收支豫算を別紙 (省略) の通り承認することとせり
3. 飛行場急速建設の新構想論文審査員選定の件は理事會に一任することとせり
4. 昭和 18 年度土木賞牌贈呈論文の選定は編輯部長に一任することとせり
5. 特定期間中入會金を免除 (理事會議事参照) することとし之を通常總會に諮ることとせり
6. 通常總會を昭和 19 年 2 月 15 日帝國鐵道協會に於て開催することとし議案を別紙 (理事會議事參

照)の通り決定せり

第 1 回飛行場急速建設新構想應募論文審査委員会 (昭. 19. 1. 11)

出席者: 黒河内會長, 鈴木委員長, 信澤委員外 10 名
中村書記長, 小野寺庶務主任

黒河内會長より飛行場急速建設新構想懸賞募集の趣旨に就き説明, 鈴木委員長の挨拶あり協議に入る

協議事項

1. 審査方針に就き協議したる後ち應募論文に對し出席委員に於て一應入選と認められる 10 篇を選定し更に後記の日程及順序に依り全文を審査の上 100 を満點として採點を附し, 最後に合計點を附して次回委員会に提出審査を重ねることとせり

審査日程及順序

- 1 月 10~13 日 軍需省 (布袋委員)
- 13~17 日 海軍施設本部 (江藤, 登川委員)
- 17~20 日 航空局 (井關委員)
- 20~22 日 東京帝大 (福田委員)

總 務 部 記 事

第 14 回建設機械研究委員会 (昭. 18. 12. 23)

出席者: 本間第 2 部委員長, 伊藤委員外 5 名, 宮澤囑託

協議事項

1. 河川關係委員より提出されたる河川關係機械水準調査報告書の検討を行ひたり

第 44 回對爆調査委員会 (昭. 18. 12. 16)

出席者: 釘宮委員長, 奥田委員外 3 名, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 河原委員提出の 1-1-4「空襲と氣象」ゲラ刷に對する審議を行ひたり

2. 此後の土木防空資料蒐集に就き協議の結果資料目次中の土木防空部面を重點的に取纏め發表することとし資料蒐集期間及擔當委員を次の如く決定せり

(1) 資料蒐集期間, 昭和 19 年 3 月中

(2) 擔當委員

- | | |
|------------|----------|
| 一般對策 | 全委員 |
| 事業場, 鑛山及工場 | 牧野委員 |
| 鐵道軌道及地下鐵道 | 河原, 根來委員 |

道路及街路 奥田委員

橋 梁 友永, 最上委員

港灣, 河川及運河 本間委員

航空港, 下水道及電氣 河上委員

第 45 回對爆調査委員会 (昭. 18. 12. 22)

出席者: 釘宮委員長, 河上委員外 3 名, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 河原委員提出の 2-7-6「空襲下の防疫」ゲラ刷に對する審議を行ひたり

晩 餐 會 (昭. 19. 1. 14)

西部地方風水害調査に關する協議のため内務省土木出張所長を招待晩餐會を開催せり出席者次の如し

黒河内會長, 鈴木, 内海副會長, 山下理事, 眞田前會長外 4 名, 原口土木出張所長外 4 名, 金古委員長, 堀越委員外 4 名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外 2 名

調 査 部 記 事

第 5 回潮害調査委員会 (昭. 18. 12. 15)

出席者: 金子委員長, 青木副委員長, 菊池, 千秋兩委員, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 江口特別委員申出に依る刈田港調査資料檢閲に關し下關要塞司令部へ別紙 (省略) の通り錄取複製承認申請書を提出することとせり

2. 課査資料蒐集を可成的速かにするため委員長又は副委員長に關係地方へ出張を煩すこととせり

西部地方風水害調査委員会打合せ (昭. 18. 12. 21)

出席者: 金古委員長, 信澤調査部長, 内村, 菊池, 水谷君, 中村書記長, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 調査方針並に委員選定に就き協議し委員に次の諸君を依頼することとせり

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 委員 菊地 明君 | 片平 信貴君 | 水谷 鏞君 |
| 阿部 一郎君 | 遠藤 守一君 | 橋本 規明君 |
| 衆重 信雄君 | 柿 德市君 | 黒田 靜夫君 |
| 内村 三郎君 | 岡崎 三吉君 | 堀越 一三君 |
| 根來 幸次郎君 | | |

2. 地方委員の選定は内務省土木出張所長に選定を依頼することとせり

編 輯 部 記 事

第 1 回編輯委員會 (昭. 19. 1. 7)

出席者: 福田委員長, 五十嵐, 本間, 岡本, 最上, 藤森
各委員, 村上編輯主任, 鈴木囑託, 上田書記

(1) 會誌第 30 卷第 3 號の編輯企畫面に關し次の
決定を見たり

1. 「飛行場急速建設の新構想」の應募論文の審
査報告
2. 應募原論文中優秀なるものゝ全文又は梗概の
掲載

(2) 時報, 時評, 感想, 工事報告の原稿依頼先決定

(3) 土木學會論文集第 1 卷 (3 月發行) 登載論文

決定

(4) 第 5 回日本工學會論文講演時間會場に付協議
せり

北 海 道 支 部 記 事

土木技術講習會 (昭. 18. 12. 3~4)

出席者: 112 名

講師及演題:

- | | |
|-------------------|----------|
| (1) 氷 の 話 | 林 猛 雄君 |
| (2) 滿洲と嚴寒土木工事に就て | 瀬 戸 政 章君 |
| (3) 煉瓦及石材の凍害に就て | 板 倉 忠 三君 |
| (4) 冬 の 鐵 道 | 谷 川 會 治君 |
| (5) 寒中コンクリート施工に就て | 大坪喜久太郎君 |

(6) 雪 の 話 高橋敏五郎君

第 3 回役員會 (昭. 18. 12. 24)

出席者: 井口支部長, 重森商議員外 2 名, 小川幹事
長, 横道幹事外 3 名

報 告 昭 和 18 年度會計現況

議 事 昭 和 19 年度支部大會開催の件, 次期支
部長改選の件

關 西 支 部 記 事

第 3 回役員會 (昭. 18. 12. 5)

出席者: 星野支部長, 三瀬前支部長外 1 名, 今井商
議員外 5 名, 桑野幹事長, 橋川幹事外 5 名

議 事

昭和 18 年度支部總會開催の件

昭和 18 年度事業及會計報告

支部長改選

役員改選

昭和 18 年度見學會開催の件

支部總會 (昭. 18. 12. 5)

會 場: 大和ホテル

出席者: 75 名

議 事: 事業及會計報告

支部長改選

役員改選

講 演:

マライに於ける鑛産資源に就て 伊 藤 尙君

塘沽港建設の概要に就て 片 岡 謙君

映 畫:

土木機械使用の實況, 鐵筋コンクリートセグメン
トの製作

事務所位置變更

新事務所

福岡市天神町 福岡縣廳土木部河港課内

日 本 工 學 會 記 事

第 10 回評議員會 (昭. 18. 11. 20)

議 事 下半年職員手當支給の件

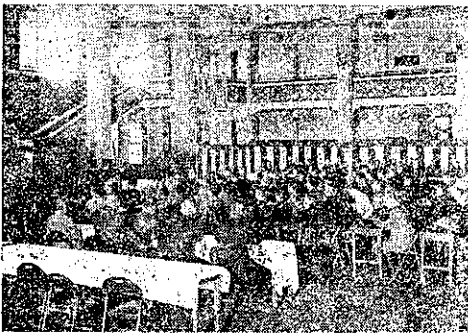
そ の 他 記 事

土木學會誌第 30 卷第 1 號を發行成規の手續を了
し會員に配布せり

臺灣支部創立總會

昭和 18 年 12 月 4 日、臺北市公會堂に於て土木學會臺灣支部創立總會を開催せり。同日午後 2 時開會の辭に次で幹事長濱田正彦氏より、支部設立經過報告ありて後、支部長松本虎太氏發會の辭を述べ、續いて來賓臺北帝大總長安藤正次氏、臺灣電力社長増田次郎氏の祝詞あり。午後 3 時會を閉ち、同 3 時 10 分より講演會を開き、總督府技師磯田謙雄氏の「清水溪天然堤堰に就て」臺北帝大工學部長安藤一雄氏の「航空燃料の常識」、海軍大尉原直久氏の「帝國海軍と航空作戦」等の講演あり。午後 6 時より晚餐會開宴、出席

支部長の挨拶



者は會員 93 名、來賓 23 名なり。

濱田幹事長の支部設立經過報告

私僭越であります幹事と致しまして土木學會臺灣支部設立に至ります迄の經過に付いて極く簡単に御報告を申し上げます。御承知の通り我が土木學會は純然たる學術團體でありまして土木工學の進歩と土木技術の發達を圖るを目的とし大正 3 年に創立されたのでありまして本年は將にその 30 周年に相當致して居る次第であります。創立當時の全國の會員は僅かに 400 名足らずでありましたが現在では約 12000 名の多きに達しまして初代會長古市博士より現會長黒河内博士に至る迄 31 代の會長を戴きまして今日に至つてゐるのであります。

而して全國に學會支部が 4 ヶ所ありまして即ち大阪に關西支部が昭和 2 年に設置されてから相次いで仙臺に東北支部、札幌に北海道支部、名古屋に中部支部、福岡に西部支部、京城に朝鮮支部、北京に河北支部、廣島に中國支部の 8 つの支部がありました。今度臺北に臺灣支部が出來まして全國 9 ヶ所になつた次第であります。此外に我國の土木學會の分身で

あります滿洲國土木學會が昭和 15 年新京に出來て居るのであります。

土木學會の沿革は斯の如く遠くありまして又其の組織と云ふものは全國的に行渡つて居りますが獨り我臺灣のみは地理的に掛離れて居ります關係上支部が出来るのが今日迄非常に遅れたのであります。臺灣に於ける會員の状態を申しますならば昭和 17 年末に於て臺灣の土木會員は大體 240~250 名でありましたが支部設置規程に依りますと 200 名以上の會員在住地方は定款 5 條に依り支部を設置する事が出来る事になつて居りまして、我臺灣と致しましても支部を設置する資格は有つたのであります。唯手續上の問題が残つて居つた様な譯であります。従つて此の 2、3 年來臺灣から會員が上京致します度に學會本部は勿論、大學の先生始め其他諸先輩方から臺灣に早く支部を設置せよとの勸誘を受けた事が再三であつたのであります。未だ機が熟しなかつたとでも申しませうか今迄遂々出来なかつた様な次第であります。然るに今や南方共榮圈に於ける土木建設事業と云ふものは日に日に進展致しますと共に又本年からは我臺北帝國大學工學部が創立されまして土木工學科の開設を見る事になりまして斯く周圍の情勢が我臺灣に支部を設置すべき氣運を感々醸成せしめたのであります。之以上遷延せしむる事は我々會員と致しまして我國土木學界に盡すべき道ではないと考へまして本年 3 月有志相寄り協議致しました結果茲に感々支部を設置する實行に移つた様な次第であります。その時に發起人になつて頂きましたのは 28 名でありましてその氏名は先程皆様の御手許迄御報告致しました通りでありまして 4 月 10 日に發起人會を開催致しまして満場一致臺北に支部を設置すると云ふ條件を決定致したのであります。それから種々事務的準備を致しまして 5 月 10 日に 26 名の發起人連署を以て臺灣支部設置申請書なるものを本部に提出したのであります。越えて 6 月 7 日に東京本部の役員會で承認されまして、茲に我が土木學會臺灣支部が昭和 18 年 6 月 7 日を以て成立したのであります。それから初代の支部長は發起人の互選に依る事になつて居りますので、發起人會に於て臺灣電力會社副社長松本虎太氏を臺灣支部長に推舉致したのであります。其の後支部長から 16 名の評議員と 4 名の幹事が委嘱されまして尙當時適當な事務所がありませんので私の居ります臺北市古亭町 21 番地臺灣總督府鑛工局土木課分室に取敢へず事務所を開きまして事務を

開始致した様な次第であります。斯くの如くに臺灣支部が6月7日を以て成立致しました上は直ちに創立總會を開くべき筈でありましたが折角の發會式でありますから此の機會に講演會の外に土木工事の有益なる映畫會をも併せ開催致す事に致しまして内地との交渉のため總會の開催期日を本年の9月4日と決めましてフィルム取得に本部と交渉を續けたのであります。が御蔭の通り時局は日に日に逼迫して参りまして映畫フィルムを内地から取寄せる事は思ひも寄らぬ事になり又總會開催さへも懸念される様な状態になつたのは皆様御承知の通りであります。それで總會も或は無期延期にしてはとの議論も起つたのであります。が再三役員會、幹事會を開き協議致しました結果、臺灣支部と云ふものは謂はば此の逼迫せる時局に即應して發足致したと云ふも過言でなく例へば飛行場の建設にしろ、港灣の修築、或は道路鐵道の建設等、戦争の第一線は勿論の事、又統後に於きます生産力擴充の建設部門に於きましても一日として缺く事の出来ない土木事業の急速進展を圖る使命を有する學會でありますからして斷然創立總會は開くべしと云ふ事に一決致しまして本日漸く此の總會を開催致す運びと相成つた次第であります。

當初9月4日に總會開催の豫定なる事を各位に御報告致して置きました約3箇月延期しました事は我々我々幹事の不幸際でありまして特に御許しを願ひ度いのであります。が支部が設置されましてから臺灣の會員の状態は役員御盡力或は會員各位の御後援に依り新會員の加入申込が續々ありまして創立前245名の會員でありましたものが現在11月末に於て447名、約倍に達する盛況になつて居るのであります。

尙臺北帝國大學土木工學科が段々秩序立つて参りますれば學生陣よりの増加も考へられまして我々臺灣支部は益々發展して行く事と推察される次第であります。

以上臺灣支部の設立に至ります迄の經過に就き御報告申し上げたのであります。が尙本日の總會開催に關しましては不備、不行届の點が多々ある事と考へられまして寔に恐縮に存じますが凡て我々幹事の不敏の至す所でありまして此の點特に御寛容を御願ひ申上る次第であります。

松本支部長挨拶

本日土木學會臺灣支部の創立發會式を開催致しますに當りまして來賓各位には時局柄御多用にも不拘御賓臨を賜り會員一同に代りまして厚く感謝の意を表す

る次第であります。

實は只今幹事長から申上げました通り時局柄斯かる會合は取止めたらと云ふ問題も御座いました。が此の重大時局に際しまして我々土木技術者が一堂に集りまして支部の設立と共に新たな覚悟をもつて進む事は意義の有る事と考へ本日此の發會式を舉行致しましたので御座居ます。

豫て計畫致しまして内地から知名の技術者をお招きして講演をする事に致して居り又専門の技術的映畫を取寄せまして映畫會も之に加へ度いと云ふ様な計畫も致して居りましたが目下交通が不如意であります爲に總て之は取止めと致しまして本日の發會式は極めて簡素な事に致しまして地方の會員の各位にも出席をお願ひする事も差し控へたのであります。その點御諒承願ひ度いと思ひます。

支部の設立經過に付きましては只今幹事長より御報告申上げましたが此の設立に對して各方面から多大の御援助を頂き又會員有志の方々の熱心なる御盡力の結果凡て順調に取運びお蔭を以て會員は殆ど倍加して會を非常に強化する事が出来ました事に對し此處に厚く御禮を申し上げます。

臺灣の土木界は本島改竅以來一視同仁の御聖旨を奉じました歴代總督の統治の下に土木方面に於きましても本島の文化の向上、島民の福利増進のために協力して参りました。その結果清國時代に於きましては全く一化外の地として未開の状態に放棄せられて居りました。此の臺灣島を今日に見られる如く殆んど母國に劣らざる文化に導きまして島民の幸福なる生活は多年歐米の闢隸でありました南方の諸地域に比べますと全く雲泥の差がある様にして参つたのであります。此の間に後藤長官の如き高邁にして且つ土木事業に對しても高い見識を持つて居られ、事に當つては先人の糟粕を嘗める様な仕事はすべきで無いと云ふ風な進歩的御指導に依りその御精神を享けて本島の土木事業には着手の當時に在つては恐らく本邦の土木事業の尖端を行つた様な仕事が多くあるので御座居ます。

只惜しむらくは臺灣は國土が狭く資源にも亦限りがあり經濟的の制約を受けます爲に土木事業の規模及びその量に於ては自ら限度が有り近來やゝ行詰りの感があり、會員諸君に於かれましても恐らく脾胃の曠が有ると御察するのであります。然るに大東亞戦争の緒戦に依り皇軍は東亞10億の人間を抱擁して居る約4000萬方軒の地區から歐米の侵入者を驅逐致しまし

て此處に新たに大東亞共榮圈の建設に進んで居るのであります。貪婪にして飽く事を知らない米英は之等の地區を彼等の搾取場なりと致しまして、その奪回を企だて死力を盡して反撃して居りますが、我が國は此の緒戦の勝利に依り占めました優位を保つて國家の總力を擧げて勝利の完遂を期して居ります。

之が爲には内には國民の總力を擧げて戦力の増強に努めて居りますと共に南方の資源を開發利用致しまして之を戦力増強に資する資源作戦及び日本の強力なる指導育成の下に 10 億住民の力とその豊富なる資源を活用致します共榮圈の建設作戦、此の二つは假令今期の戦争が長期、短期兩様の作戦に依り完勝を致しませぬ場合に於きましても是非必要な事柄であるのであります。

此の二つの點を考へます場合に我が臺灣と云ふものは全然今日迄の容相と違つて、内に於きましては島内の生産を擴充致します事は勿論であります。此處に工業の振興を圖つて國防體勢を整備し又地利的の利點を利用致しまして南方資源を活用する所の工業の振興、又南方交通の據點としまして交通の整備をする事も今日迄の様な内幕の經濟連繫を主とした時代とは全然趣を異にして參るのであります。又外に對し此の南方建設の指導育成に對しても多年南方の殖民地に於て特異の經驗を持つて居る人達が大きに活躍し協力すべき秋に相成つたのであります。かう考へますと臺灣の土木技術も居乍らにしてその舞臺は非常に擴大されたのであります。之に對しては自ら大いに備へて大いに實力を養成する必要があるので御座居ます。

此の土木界の實力を養成する事に就きまして全體的に此の土木界の實力を養成すべきでありまして、伊太利の航空界に於て世界の最高記録の約半數はイタリーが占めて居るのであります。今回の實戦に於てその機材に於きましても或は戦闘力に於ても非常に劣等であつたと云ふ事はたゞ少數の天才的或は英雄的の人材の存在は全體の實力で無いと云ふ事の一つの證左であります。その點から致しまして島内に在つては全會

員の相互の連絡を圖り、又團體としまして本部とよく連絡を採りさうして協力相勵みまして全體的の向上を圖るは非常に大切な事であると存ずる次第であります。

將來支部のなすべき事業に付きましては前申しました様な趣意に於て土木技術の進歩向上に對し色々な工夫を凝らして着々と實行致し度いと考へて居るのであります。幸に本年度より臺北帝國大學に土木學科を置かれまして從來我が日本の技術に於きまして學術を直ちに技術的實行に移す事が兎角缺けて居つたのであります。その點はよく留意致しまして大學研究は直ちに技術方面に利用活用する事に努力致したい。之は會員諸君に於きましても左様に努力して頂き度いのと同時に大學に對しましてもかう云ふ事を願ひして大學の設立の意義あらめたいと考へて居るのであります。

一體此の土木技術は機械、電氣或は化學など他の技術面と和合しまして初めて其處に進歩が有るのであります。又土木事業は政治、産業、經濟の一つの手段として成立するものでありまして、單獨の土木事業と云ふものは無いのであります。之を逆に申しますと土木技術の優劣は政治、産業、經濟に非常な影響を及ぼすものでありますからして此の土木技術それ自身の向上は非常に大切でありますと共に非常に廣い方面に關係を持つて居るのであります。來賓各位に於かれましても此の土木技術の向上の爲に新に設立された此の支部に對し御理解を持ち引續き御支援の程を願ひ致し度いと存ずる次第であります。

終りに臨みまして本支部の設立に對し來賓各位から賜りました御支援に對し厚く御禮を申しあげます。又會員有志の方々の非常なる御盡力に對し感謝の意を表します。御支援並に御盡力に依り幹事長からも報告がありました様に、支部の會員は一躍して殆んど倍加する様な成績を擧げまして本島に此の支部が必要であつたと云ふ事を實證する事が出来ました事を此處に御報告を申しまして私の御挨拶は簡單であります。之を以て終りと致します。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 會 員 (入 會)

北票炭礦株式會社

平石榮一郎 3級

正 會 員 (入 會)

大友辰夫	梶原亮二	古林正章	齊藤茂藤	野坂博	松尾喜治
村田清逸	安田鐵藏	加藤喜次郎	藤麻鶴五	高橋友吉	寺木義三
菅原丈	高橋理三	高見廣金	直江利之	安田勝	柳沼三郎
和田廣	塗師榮三	古家金造	八木祐市		

准 會 員 (入 會)

伊藤小	藤林一	夫夫夫	梅崎登	江藤力	尾形正	大谷正	二	梶谷作	藏
南宮平	藤林一	夫夫夫	梅崎登	江藤力	尾形正	大谷正	二	梶谷作	藏
南宮平	藤林一	夫夫夫	梅崎登	江藤力	尾形正	大谷正	二	梶谷作	藏
南宮平	藤林一	夫夫夫	梅崎登	江藤力	尾形正	大谷正	二	梶谷作	藏

學 生 會 員 (入 會)

安柿榎	健正元	次美一	鮑益方	浦吉常	靖隆治	有澤潤	次郎	稻見健	一郎	大澤聰	明夫	奧長	田谷川	博治
榎尾持	健正元	次美一	鮑益方	浦吉常	靖隆治	有澤潤	次郎	稻見健	一郎	大澤聰	明夫	奧長	田谷川	博治
榎尾持	健正元	次美一	鮑益方	浦吉常	靖隆治	有澤潤	次郎	稻見健	一郎	大澤聰	明夫	奧長	田谷川	博治
榎尾持	健正元	次美一	鮑益方	浦吉常	靖隆治	有澤潤	次郎	稻見健	一郎	大澤聰	明夫	奧長	田谷川	博治

准 會 員 (轉 格)

大野宏	木全茂	清野悅	司佐藤	三郎	柴田清	男	田中洪	五
野端哲	木全茂	清野悅	司佐藤	三郎	柴田清	男	田中洪	五
野端哲	木全茂	清野悅	司佐藤	三郎	柴田清	男	田中洪	五
野端哲	木全茂	清野悅	司佐藤	三郎	柴田清	男	田中洪	五

土 木 學 會 會 員 數 (昭. 18. 12. 20 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合 計
4	4073	7334	2150	211	25	14397

正會員 中村甚一郎君昭和 18 年 4 月 26 日南方に於て戦死せられたり 本
會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 千田金治君は昭和 18 年 4 月南方に於て戦死せられたり 本會は靈前
に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 尾田行正君は戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の
意を表したり

准會員 竹田吉太郎君は戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼
の意を表したり

准會員 満間憲三君は昭和 18 年 11 月 25 日南方に於て戦死せられたり 本
會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 野村尙武君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す



中國四國支部役員

支部長	西赤佐廣工	岡松藤長	宏三良久	治郎一郎	龍慶幹竹	川東下原	荒西松桑	雄治雄二	美藏太雄	益勝秀三	崎田宅利	奧登三佐	北成三竹	澤松上重	忠清貞	男雄昭藏
幹事	長	長	長	長	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事

臺灣支部役員

支部長	松阿磯白前濱	本部田木田田	虎貞謙民兼正	大壽雄次雄彦	苗郎一悠一	季三俊敏	田野村谷本	池上竹增坂	郎郎三造彦	次三廣繁正	林幸川口下島	井川山下島	石北谷山田	石篠圖山牧	椽原子本野	久國武八	展憲八格郎
幹事	長	長	長	長	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事

會誌編輯委員會委員

委員長	福東須藤村	田之森上	武內謙永	雄海唯一一	輔清一	義陽	井戶野	新杉星	三夫仁	醇邦	嵐秋間	五千本	岡丹最	本羽上	輝良武	三彦雄
委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員

滿洲土木學會役員

會長	本大宇	岡野木	德野木	雄巖市	鈴木重	木住	長文	明男	副會長	坂照	上井	丈隆	三三	郎郎
副會長	浮小福	味島	洲三	賀肇治	四作二	弘與健	田野原	內高藤	副編輯	直治 / <td>具平</td> <td>島川</td> <td>太保</td> <td>郎一</td>	具平	島川	太保	郎一
常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務	常務

昭和19年1月25日印刷 昭和19年2月1日發行(定價金1圓)

編輯兼發行者 東京都牛込區南町33番地 中村孫一

印刷者 東京都神田區美土代町16番地 (東東35) 倉澤直男

印刷所 東京都神田區美土代町16番地 株式會社三秀舍

東京都麴町區丸ノ内3丁目6番地

發行所 社團法人 土木學會

電話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番